

無痛分娩における硬膜外ブロック治療情報

硬膜外ブロックについて

腰からカテーテル(細い管)を挿入し、硬膜外腔に薬を注入します。
薬は局所麻酔薬と麻薬性鎮痛薬を使用して、痛みを和らげます。
また、痛みが強いときには薬を追加します。

お産の痛みには、陣痛と産道が広がるためにおこる子宮頸管の拡張、膣と外陰部の圧迫と裂傷に伴う痛みがあります。
無痛分娩ではお産のために必要な子宮の収縮に伴う陣痛を残して、産道の拡張に伴っておこる痛みのみをとり除くことを目的としています。

痛み止めとして使用する局所麻酔薬、少量の麻薬性鎮痛薬は、胎児および母体に対して、その影響は無視できるほど小さいことが確認されています。

以下にこの処置に対する注意点と合併症を表記します。

硬膜外ブロックの随伴症状と合併症

随伴症状として

- ①血圧低下：硬膜外ブロックを行った場合には血圧が下がることがあります。
血圧が低下すると、気分不快、吐気、嘔吐を生じることがあります。
この場合は、体位の変換、輸液、昇圧剤(血圧を上げる薬)で対処します。
- ②運動麻痺：効きすぎた場合には、足のシビレや脱力を感じる場合があります。
立位・歩行は転倒の可能性があるため看護スタッフが付き添いをいたします。その際は呼びいただけますようお願いいたします。

稀な合併症として

- ③頭 痛：カテーテルを挿入する際に、硬膜を破ると、後に頑固な頭痛(後頭部、10日ほど持続、立ち上がると悪化)を起こしてしまうことがあります。
この場合は、麻酔の範囲が拡がりすぎてしまう危険性があるため硬膜外ブロックは中止します。

④局所麻酔薬中毒

⑤全脊髄くも膜下麻酔

⑥硬膜外感染

⑦硬膜外血腫

④、⑤、⑥、⑦はいずれも非常に稀ですが、痙攣、麻痺など重篤な障害を伴う危険性がある合併症です。母体の全身管理が必要になることがあります。